

## 「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学工学部 1年 橋本竜馬

## ①学習成果

第2外国語として京都大学で中国語を学んでいたため、実際に現地で使ってみたいという思いを持ってこのプログラムに参加した。日本での事前学習ではチューターに基本的な会話表現などを教わった。そこである程度中国語を聞くことに慣れたことが出発前のちょっとした自信になったと感じる。現地での中国語の授業は文法、口語、聴力の三種類があった。どの先生もやさしく、楽しく授業に望むことができた。同じクラスにいた他の国の留学生たちとも打ち解けられ、初日から一緒に食事をするなど交流をすることができた。授業は主に中国語と少しの英語を交えて行われた。先生の話していることで多少わからないことがあってもクラスメイトが教えてくれたため不自由はなく、なるべく授業では先生の話していることに反応するようにした。クラスが明るく楽しい雰囲気であったためまったく苦しくはなかった。ただクラスメイトのほとんどは英語が当たり前のように話せ、自分の英語はまだ拙いと感じた。

## ②海外での経験

とにかく自信がついた。言葉が拙くても伝えたいことはかなり伝えられたと感じる。バスの中でやさしいおばあさんと中国語で話したが、中国語が上手だねとほめてくれたのが純粋にうれしかった。また中国のお店で買い物をしたり料理店で注文したりといった当たり前のことができるというのはかなりの自信になった。いつかまた長期で滞在をしてみたいと感じた。

現地の浙江大学の学生だけでなく他の国から来た留学生とも多く交流した。食事を一緒に食べたり、卓球を一緒にしたりした。平日はいつも日本人以外の誰かと交流ができ貴重な体験だった。日本の学生は京都大学だけでなく東京大学と静岡県立大学の学生もあり、いろいろお話ができ楽しかった。また浙江大学のボランティアの方は本当に様々なサポートをしてくれた。

土日は自由行動なのでグループで遠出する人がほとんど、私は日本人の友達と土曜日に上海、日曜日に烏鎮に行った。写真も多く撮りととても楽しかった。

中国では Alipay や Wechat Pay といった QR コードによる支払いが普及しており、むしろ現金はほとんど使われないと出発前から聞かされていた。しかしわりとお店の人も快く現金でも対応してくれたため、私は現金しか使わなかったがただ買い物をするだけなら不自由は感じなかった。ただ自動販売機やレンタル自転車などは現金では使えないため、もちろん QR コード決済ができるほうがよいと思う。QR コードを読み取って料理店のメニューを表示するシステムもあった。

## ③プログラム内容

平日の午前中は授業があり、午後はボランティア引率で見学ツアーが用意されていたり自由行動があったりした。午後に自由行動で授業があるときは授業に出席した。授業の時間割はクラスによって異なる。見学ツアーでは博物館などを見て回った。私は高校時代に世界史を学んでおり、多少背景知識があったおかげで博物館では知っている人名や出来事の記述を見つけてうれしくなった。また杭州は緑茶が有名、お茶の博物館では様々な種類のお茶を中国式に振舞ってもらい楽しかった。

## ④進路への影響

まだ進路は具体的には定まっていないが、今はただ中国語をこれからも上達させたいと考えている。私は工学部に所属しており、語学を直接扱う仕事（例えば翻訳家のような）をするつもりではないが、中国語を話せることで中国語圏の人との関わりを作ることができるというのは仕事に活かせると考えている。中国料理もおいしい中国の文化は好きなので将来も公私問わず中国に関わっていきたい。